

## 学生、ラベル製作 奈良の酒を紹介

大阪・デザイン展

日本酒にラベルを通じて関心を持ってもらおうと「奈良の酒&大阪芸術大学学生ラベルデザイン展」が20日まで、大阪市阿倍野区のおべのハルカス近鉄本店で開催されている。

デザイン展は、同店で開催中の催事「日本酒めぐり」の一環。県酒造組合（芳村隆博会長、約30社）などの協力のもと、内閣府の地域活性化伝道師として



自分たちがデザインした奈良の日本酒のラベルを見る学生たち

＝大阪市阿倍野区のおべのハルカス近鉄本店で

について学びながら製作したラベル約30点が展示されている。

ラベルに米粒を大きく配した3年生の佐藤葵さんは「日本酒はあまり飲まないが、酒造りの話を聞き興味深かった」と話す。一方、「手に取ってみたいくなるデザインが多く、参考になった」と言うのは、河合酒造（橿原市）の西川暁子社長。塚本英邦・同大副学長は「学生にとって非常にいい経験で、今後さまざまな形で地域との協力を深めていきたい」と話した。

【大道寺峰子】